

(公開学習Ⅱ)

第3学年1組 社会科学習指導案

授業者 谷田 健司

3年1組教室

1 単元名 かわってきた人々の暮らし ～古い道具と昔の暮らし～

2 授業構成

(1) 教材に対する反省と新しい提案

本単元は、小学校学習指導要領解説社会編第3年生及び第4学年の内容(5)において

地域の人々の生活について、次のことを見学、調査したり、年表にまとめたりして調べ、人々の変化や人々の願い、地域の人々の生活の向上に尽くした先人の働きや苦心を考えるようにする。

ア 古くから残る暮らしに関わる道具、それを使っていたころの暮らしの様子

に位置づけられている。ここでは、現在も残っている暮らしに使われた昔の道具を取り上げ、道具の様子やそれらの使い方を具体的に調べるとともに、そのころの人々の暮らしの様子や地域の人々の生活が変わってきたことを、実際に体験したり調べまとめたりする中で学んでいく。そこで、これまでの授業展開を振り返ってみると、古い道具と昔の暮らしの学習においては、道具の移り変わりの変化を年表やワークシートなどにまとめ、道具の工夫や人々の願い、生活の変化の移り変わりをまとめることが多かった。まとめる活動を通して、道具にこめられた人々の知恵や工夫、人々の生活の変化に気づかせる中で、事実を読み取るだけで終わってしまい、道具の移り変わりが現在の社会生活とどうつながっているか、児童が主体的に思考し、学び合う授業になりにくいと考えている。

本教材は、児童が確かに思考を高める学び合える授業を実践するためには、現代社会に生きる児童が昔と今の生活のつながりを意識できるように、身近な教材を取り上げ、体験・見学・インタビューするといった実感をともなう活動を組み入れながら単元を構築していくことを目指したい。

(2) 子どもの学びの実態・期待する学び方

児童はこれまで、自分たちの住んでいる地域やその暮らしを支えている人々について学んできている。本単元は、児童にとって初めての歴史単元であり、およそ100年という期間の中で地域の人々の生活の変化や願いを捉えることのできる単元である。

道具の移り変わりについて調べることは、児童にとってとても興味深く、楽しみながら意欲的に学習に取り組めると思われる。しかし、ただ単に道具を調べ、まとめて終わるのではなく、昔の人々の暮らしが自分自身にとって無縁なものではなく、今の生活と深く結びついていることに気づかせたい。また、「昔の人は大変だった」「昔は不便だった」と感じて終わるのではなく、今も生きる先人の知恵や工夫が感じられるような調べ学習を展開したい。

(3) 本時の学習に向けての教材研究

調べ学習を通して、児童は昔の暮らしの様子を想像したり、今の道具と比べたりしながら、暮らしの変化やその時代をよりよく生きようと知恵を出し合った人々の姿を考えていくことができる。児童が調べ学習を進める上で、家族を含めた地域の人材に直接会ってインタビューしたり、博物館などで昔の生活道具を見学したりするだけでなく、体験という直接経験の場を設定して学ぶことにより、児童の意欲・関心を深めることが期待できる。また、「洗濯」「炊飯」にスポットを当て、「考える場面」「考える内容」

をしぼり、話し合い活動が活発に行えるような学習課題を設定する。

そして、「なぜ道具が変わったのか。」「何が要因で新しい道具ができたのか。」そのことによって「社会はどうなったのか。」と発問を投げかけることで、今の生活とのつながりを考えさせることができ、さらに「昔」を身近に感じさせることができると考える。「どうして、昔の道具が今も売られているのだろう」と問いかけをし、インターネットで販売されているキャッチコピーや商品名、買った人のレビューを紹介し、今の道具と違ったよさに着目させ、あらためて先人の知恵や苦心に気づかせたい。

3 単元の目標

- 古くから残るくらしにかかわる道具、それらを使っていたころのくらしの様子や、地域の人々のくらしの変化が人々の願いや知恵によるものであることを理解する。
- 家族や親戚のくらしの変化から学習問題を見だし、古い道具の使い方を教わったり、博物館で昔のくらしを調べたりして年表にまとめるとともに、人々のくらしの今昔の違いや変化、人々のくらしの知恵について考えたことを適切に表現する。

4 学習計画（全9時間）

第1次

- 1時 古い道具を観察し、道具の使い方や何に使われていた道具なのか予想しよう。
- 2時 昔の洗濯板を実際に使う活動を通して、その当時のくらしを考える。
- 3時 体験を通してもった感想や疑問を整理し、昔のくらしを調べる計画を立てる。

第2次

- 4・5時 昔の道具の特徴について、県立博物館の見学したりや家の人に聞き取りをしたりして調べる。
- 6・7時 道具がどのように変わってきたか道具年表を作る。

第3次

- 8・9時 道具年表をもとにして、道具がどのように変わってきたのか考える。・・・本時2／2

5 本時の学習について

（1）本時の目標

道具は先人の願いとともに使いやすく移り変わり、それに伴ってくらしが変化してきたことに気づくことができる。

（2）期待される児童の様相

- A 道具が先人の願いとともに使いやすく移り変わり、それに伴ってくらしが変化してきたことを、習得した知識や体験を比較・関連付けしながら説明することができる。
- B 道具が先人の願いとともに使いやすく移り変わり、それに伴ってくらしが変化してきたことに気づくことができる。
- C 道具が先人の願いとともに移り変わっていることに気づくことができる。

(3) 本時の展開 (○教師の意図 ◇支援)

学 習 活 動	教師の支援・意図
1. 前時までの学習を振り返り、本時のめあてを確認する。	○道具年表を表示し、昔の物から順に並べることで、道具がどのように移り変わってきたのかを確認させる。 ◇自分たちが今まで活動してきた様子や年表の写真を見せる。 ◇前時の振り返りと、道具の移り変わり方から本時の課題につなげる。
どうして道具は、うつり変わってきたのだろう。	
2. 道具年表を見て、ワークシートに予想を書く。	○既習を根拠に予想させ、個々に問題意識をもたせる。
3. 時代ごとに道具のよさを整理する。	○本単元で主に扱ってきた「洗濯と炊飯」の道具の特徴をもとに考えさせる。 ◇それぞれの時代において「便利でよいもの」であることを押さえる。
4. 道具が変化してきた理由を考える。道具が変化してきた理由を話し合う。	○道具に込められた「願い」という視点で考えさせたい。 ◇「便利でよいものが、どうして変わってきたのだろう」と問いも、ノートに箇条書きでまとめさせる。 ◇「なぜ、どのように変わってきたのか」、「つまり、くらしがどう変わったのか」等の問いで、道具の変化とくらしを関連付けさせる。 ◇「よりよく」という願いが道具を変え、くらしを便利にしてきたことに気づかせる。
どうして今、昔の道具が売られているのか。	
5. 現在も販売されている昔の道具が、どうして今も売られているのか考えて発表する。	○くらしをよりよくしたいという願いは、今も変わらず続いており、今使っているものも今後変わっていくことを身近な事例をもとにして深めたい。 ・インターネットで販売されているキャッチコピーや商品名、買った人のレビューを紹介し、今の道具と違ったよさに着目させ、あらためて先人の知恵や苦心に気づかせる。
6. 学習の振り返りをワークシートに書き、発表する。	・気づきを広めることで、学びのよさに気づかせたい。

